

政策創造員による調査・研究活動の中間報告について

平成 30 年 10 月 18 日
戦略企画部企画課**1 調査・研究の目的**

新しい三重づくりのための政策創造及び提言を行うとともに、政策創造員の政策創造能力の向上等を図ります。

2 中間報告の位置づけ

研究テーマに関する課題、研究目標、現在までの到達点、最終報告に向けた課題等について、豊富な知識と経験を有する幹部職員に中間報告を行い、ご意見、ご指摘をいただきます。

3 調査・研究テーマ

新たな時代（X 年後、20XX 年頃）※を展望した、未来の三重県のめざすべき姿の構想とその実現に向けた新たな政策の方向性

※「10 年後（2030 年頃）」（WG1、WG2）と「20 年後（2040 年頃）」（WG3、WG4）という 2 つの異なる時期をそれぞれ 2 グループに分かれ、調査・研究

【各 WG の調査・研究テーマ】

テーマ	調査・研究の概要
WG1 : 人と人の「つながり」を通じて、健康で幸福に暮らす三重	<p>県民の生涯を通じた健康で幸せな暮らしを実現するため、人と人との「つながり」を促進する取組を研究します。</p> <p>みえ県民意識調査によると、今後到来する人生 100 年時代に不安を抱く県民は多く、また、単独世帯、無職、未婚・離別・死別などの県民の幸福感は低くなっています。</p> <p>そこで、社会的な「つながり」が幸福感だけでなく、健康増進にも寄与することに着目し、県民が新たな「つながり」により、生涯を通じて健康で幸福感のある生活を送るための取組を提案します。</p>
WG2 : “ ^{まね} 宣長に学ぶ 若者たちに選ばれる三重づくり”	<p>全国と同様、三重県の人口は減少傾向にあり、三重県では特に若年者層の県外流出が人口減少の大きな要因となっています。この状況が続くと、2030 年には、川越町・朝日町を除く全市町で人口が減少すると予測され、さらに、2040 年になると 18 歳人口が現在の 3 分の 2 に減少すると推計されているため、2030 年の段階で若者の県外流出防止の手法を確立させることが強く求められます。</p> <p>若年者層の県外流出は、「学び・働く場」を県外、特に大都市圏に求める傾向が要因としてあります。では、若者たちが大都市圏ではなく三重県を選択するにはどのようにすればよいか。</p> <p>本研究では、三重県の地において後世に大きな功績を残した人物である「本居宣長」にフォーカスし、2030 年に生誕 300</p>

テーマ	調査・研究の概要
	<p>年を迎える宣長の生き方を改めて学ぶことにより、若者たちが自ら三重県を選択し、それぞれの情熱（パッション）を傾ける事柄に思う存分取り組み、より充実した人生を送ることができるようになる方策を検討します。</p>
<p>WG3： 効率的でしなやかな、暮らしやすいまちづくり</p>	<p>これまでは経済成長や人口増加を背景にしたまちづくりにより、インフラは都心部から郊外、山間部まで広域的に整備され、また、住民の行政ニーズの拡大を背景に自治体業務は広がり続けてきました。</p> <p>今後は、人類が経験したことがないような超高齢かつ人口減少社会を迎え、住民の生活環境やインフラ整備、行政サービスの見直しが避けられません。</p> <p>このため、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすく、持続的に社会生活を営むことができるよう、効率的でしなやかなまちづくりについて研究します。</p>
<p>WG4： 「介護」のその先へ～テクノロジーの進歩による従来型介護の解消～</p>	<p>現在の人口推計によると、今後、生産年齢人口（15～64歳）は一貫して減少し続ける一方で、2040年頃に高齢者人口（65歳以上）はピークを迎えます。その後は、高齢者人口ですら減少に転じるようになりますが、全人口に占める高齢者の割合は増え続け、2055年頃には約4割が65歳以上、4人に1人が75歳以上となる見込です。</p> <p>高齢者の増加に伴い、介護需要も増加する見込で、2025年の時点で介護職員が約38万人不足すると厚生労働省は試算していますが、生産年齢人口が減少するなかで、人力による介護需要への対応は現実的ではありません。</p> <p>そこで、今回の研究では、20年後の情報技術や医療技術等のテクノロジーの急速な発展を前提とし、その技術発展により、生産年齢人口が減少し人間の労働力が減少していくなかで、従来型介護の負担を減らすためには、どのような対策が必要かを考えます。</p>

4 報告のポイント

- 目的と研究の流れ（どういう考え方でどのように進めてきたのか）
- 現在までの到達点（これまで何が明らかになったのか）
- 最終報告に向けた課題（今後の作業に向けた課題は何か）

5 今後の予定

以降、政策創造員会議および各WG個別ミーティングにて調査・研究を進めていきます。

平成31年1月31日（木） プレ最終報告会（政策創造員会議）
平成31年2月中旬 最終報告

平成 30 年度政策創造員名簿

◎は中間報告における報告者

■ WG1：人と人の「つながり」を通じて、健康で幸福に暮らす三重

部局等名	所 属	職 名	氏 名
戦略企画部	戦略企画総務課	主査	木谷 勇介
農林水産部	津農林水産事務所	主任	小堀 純奈◎
県土整備部	防災砂防課	主査	山下 昌之
出納局	会計支援課	主任	辻裏 友視
教育委員会事務局	教育総務課	主査	北原 直

■ WG2：“宣長に学(まね)ぶ 若者たちに選ばれる三重づくり”

部局等名	所 属	職 名	氏 名
防災対策部	消防・保安課	主幹(班長代理)	坂倉 丈夫
環境生活部	環境生活総務課	主任	中村 幸樹
地域連携部	総務企画課	主事	辻 詩保里
県土整備部	県土整備総務課	主任	水谷 祐子◎
企業庁	財務管理課	主査	東尾 猛

■ WG3：効率的でしなやかな、誰もが暮らしやすいまちづくり

部局等名	所 属	職 名	氏 名
戦略企画部	政策提言・広域連携課	主査	立田 正雄
子ども・福祉部	子ども・福祉総務課	主任	坂部 貴史
農林水産部	みどり共生推進課	主査	水上 知之
雇用経済部	雇用経済総務課	主査	高木 謙治◎
県土整備部	都市政策課	技師	栗谷 絵美里

■ WG4：「介護」のその先へ ～情報技術の進歩による従来型介護の解消～

部局等名	所 属	職 名	氏 名
戦略企画部	企画課	主任	澤野 弘宜
総務部	人事課	主査	日沖 智子
医療保健部	医療保健総務課	主査	瀧谷 基和◎
雇用経済部	ものづくり・イノベーション課	主事	蛭川 大地
病院事業庁	県立病院課	主任	吉田 圭吾